

1. 基本的な事項

○空港の特徴

・大分空港は大分市中心部から北方30kmに位置した空港である

・国東半島東の地先水面を埋め立てて建設された海上空港である

・2021年度の乗降客数は85万人(国内のみ)、航空貨物3,000トン(国内のみ)、着陸回数は10,266回(国内のみ)

○空港脱炭素化に向けた方針

・旅客ターミナルビル、庁舎等において、高効率空調機器への更新、照明、灯火のLED化等の省エネのほか、再生可能エネルギーの導入などに取り組む

2. 温室効果ガスの排出量

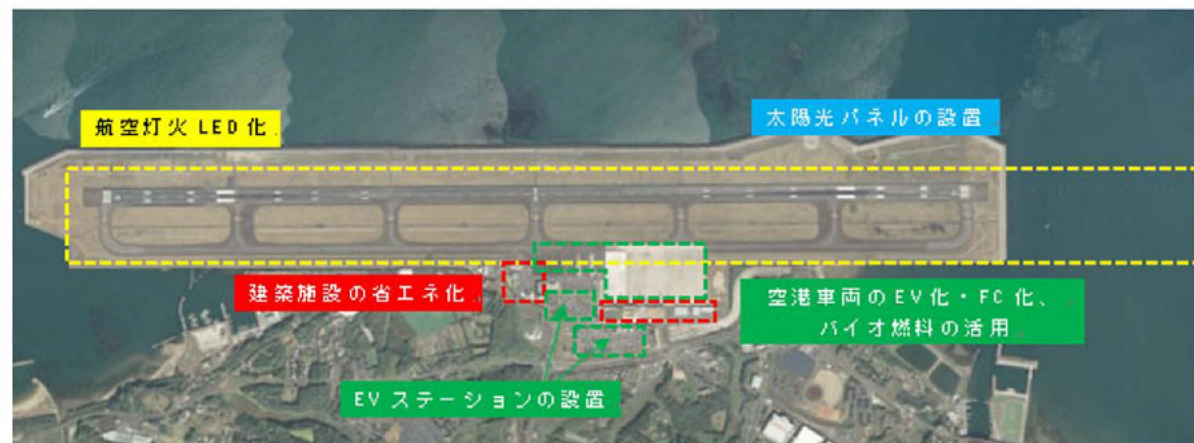
区分	温室効果ガス排出量[t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	3.3千	1.9千	
空港車両	0.35千	0.33千	
空港施設・車両 計	3.6千	2.3千	
(参考)	航空機	2.4千	1.9千
	空港アクセス	11.9千	12.1千

3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	カーボンニュートラル
2050年度目標	カーボンニュートラル (クレジット創出1.8千トン)

4. 主な取組

- ・2030年度：ターミナルビル、庁舎の照明LED化、空調の高効率化による省エネ、太陽光発電の設置を行い再生可能エネルギーを導入
- ・2050年度：太陽光発電設備の拡充を行い、蓄電池の導入



取組の内容及び実施可能性のある箇所

その他の取組

- ・車両の更新時期に合わせEV化に取り組むとともに、共有化について検討を行う
- ・EV化されない車両についてはバイオ燃料の活用により脱炭素化を進める